



今週の「人プロ」第12回

障害者について児童と考える

人プロ 138ページ

令和6年9月13日（金）

想像してみてください

1 0月下旬のある肌寒い日の中休み
担任をしていない中学年の児童が半袖の
中に両腕を曲げてしまい、

「おれ、障害者だから！！」と
ニコニコと友達に話していました。

そこに通りかかったあなた（先生）…



あなた（先生）は、なんと声を掛けますか？

★人権感覚は摩耗する → 磨き続ける（その都度勉強し直す）

★子どもの人権問題 → アンテナを高く「なんかおかしい」の感覚を大切にする。
→人権について考えさせるチャンス 一人で抱えず周りとの連携を図る

文部科学省「心のバリアフリーノート」

児童生徒が、様々な心身の特性や考え方をもちつた全ての人々が相互に理解を深めようとコミュニケーションを取り、支え合う「心のバリアフリー」に関する理解を深めることができるように、各学校において指導の一助として御活用いただけるよう、「心のバリアフリーノート」を作成・公表しています。



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1394142.htm

物理的なバリア

出入り口や通路に段差がある 等

電車やバスなどの公共交通機関、道路や建物などで、利用する人に不便さを感じさせる物理的なバリアのことです。

例えば

- ▶ 点字ブロックの上にある自転車
- ▶ 駅のホームと電車とのすきま
- ▶ 建物までの段差
- ▶ 座ったままでは届かない位置にあるもの

制度的なバリア

障害を理由に就職の試験が受けられない 等

社会のルールや制度によって、その人が持っている力を出すことができる機会をうばわれているバリアのことです。

▶ 障害による困難さがあることを理由に、学校の入試、就職や資格試験などの受験や免許などを与えることを制限する。

文化・情報面でのバリア

目の不自由な人のための音声案内が出ない 等

情報の伝え方が十分でないために、必要な情報が平等に得られないバリアのことです。

例えば

- ▶ 音声のみによるアナウンス
- ▶ 視覚に頼ったタッチパネル式のみの操作盤
- ▶ 点字・手話通訳のない講習会
- ▶ 分かりにくい案内や難しい言葉。

意識上のバリア

「かわいそうだから」と特別扱いする 等

心ない言葉、偏見や差別、無関心など、困難さがある人を受け入れないバリアのことです。

例えば

- ▶ 障害がある人に対する理解がなく、変な目で見たりがわいそうな存在だと決めつけたりすること。
- ▶ 点字ブロックがあることに関心がなく、その上に立ったり物を置いたりすること。